

長江年表

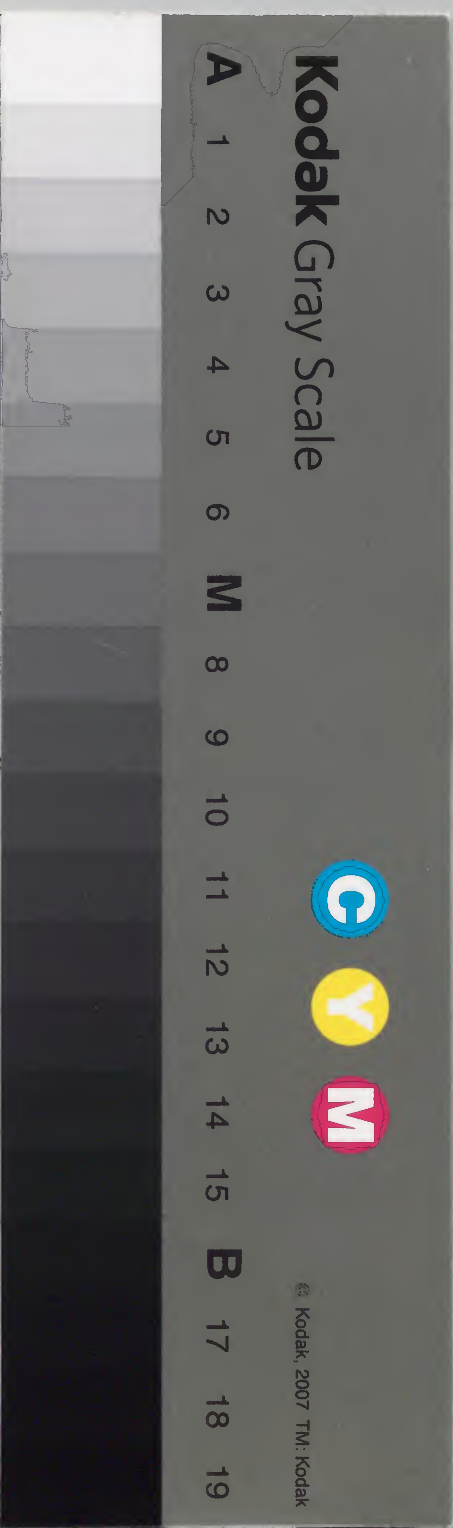
自文政元年
至嘉永元年

八止

庫	文	閣	内
一四函	三八冊	三二七五九號	和書類

210
閣

内閣文庫	
番號	和 32759
冊數	8 (8)
函號	141 86



14210

武江年表卷之八

文政元年戊寅 四月廿二日改元

米穀去年より豊饒ありて市中の老幼皆賑ひ買て貯蓄す者余せらる

○六月八日画人谷文一卒 三十三号 赤坂文尾の男 後茶屋空より小妻以 ○三月の以市中一磴を售す老姫也

芝居あはれ者相言貞好 ○五月廿八日浪谷乃玄坂田の中より中辺の女童方

二寸斗の金色の亀をゆりり ○六月十日式分判通用始る ○八月三田通寺町

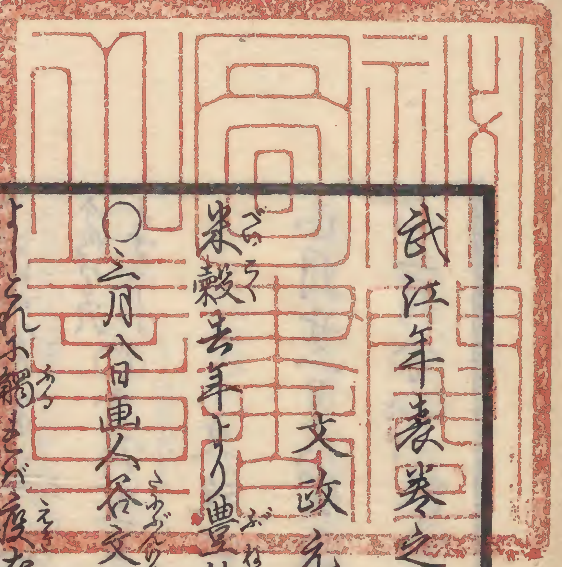
丈二某お取の小亀をゆりり ○八月より十月まで回向院にて紀州道成寺親世

音岡地 雲宝小徳那の鬼女あり一時の 南といふりのををまきせり ○九月二日儒師毎琴乃人卒 六十八才山本 十山才子

○十月六日念佛仍若徳奉上人寂小石川一初院に葬る 六十一歳と云上人の紀易日吉那志 賀谷久志村の養田依某の男あり

四才の時隣家の小児俄あ病て失りよりををを感へ念仏三昧にて女子の時出遊し燈籠を修りて

充んを化守り近年の願徳ありては仍状人の切なるが累次



武江年表卷之八

こゝろわらふ屋の上は釜の下杖をまゝとてあそびめけりて 仍若徳本

○十月十七日西小大風夕八ッ半時迄浪至陸岸の曼茶羅堂より出火花川

戸町(出火辺)僅小焼けて中の台は松浦度下中屋敷(港本所)刻下ありより

吉田町吉岡町三目四目の万二焼接多深川猿江の辺扇橋向六万坪の隙ふ

ろ焼る一口は法恩寺焼通る港々小砂村連焼亡以堅一里の隙あり○十九

日夜九時芝青松と焼亡○武江披沙成 写本太田蜀山著江戸志江戸砂子を勝乃
出小偏言るを才集くれりあり

○江戸名家墓一覽刊行 中古より江戸名家宗号没卒年月墓石を集む本々六丁目の
書肆伊世屋平次舟屋光橋軒の編りて捜索を勤う惜む板本
今仍りて

○十月廿一日司馬江漢峻卒 七十二才不言人とは江戸を西洋画をとりしりる
文ありては傳の記をあらはし遊藝傳と刊行せり

文政二年己卯 四月間

正月廿一日大雪○二月龜田勝高為高福泉岳を裁士の墓辺(碑)を建てる

○二月八日 初子 飯倉町六丁目火二町余焼亡同夜八ッ半時新着町より

出火町跡左馬町竹川町浪産四丁目尾張町二十番堀口丁目より二丁目まで

築地井伊屋は藩辺より焼る南小十町除東西四丁程焼亡翌日登四階以迄

火之火消人足の喧嘩あり○二月画工北尾重政卒 八十才和翠赤氣藍と号し板巻
信せり傳世繪中の名手なり

○詩人栢木如亭卒 廿七名祖
栢門他 ○二月廿五日より飛戸天満宮法性坊社園焼

三月廿日境内より神田住人者本何某百重 名の大さの紙一紙の字をもち ○二月廿九日夜九時本町を平目より出火

本石町室町品川町小新町日本橋一石橋の隙迄焼○夏より痢病流行

死亡の多し は節の病を借あろりと云これとを避るりてを探幽の戯画百鬼夜行の
内ぬれ女の圖を写し社社那と号し流布せり或るありのありあり

○二月十一日小田系より本食の沙門 名
觀正 湯島四満寺(名)加持を施し光形生

言を授く多機筆集影○回向院より房州名古寺觀世音開帳○淡谷長

谷ちあく相洲園亭遊了燈現筆帳○三月九日夕淡草書施ちあく上総藤原

妙光寺祖師開帳○四月一心流劍術師橋剛孫兵衛宣根卒 本三才 小石川
祥雲より卒

○真先稻為所祈開帳 ○四月より回向院之羽州湯屋山火持現火日如來開帳

別當注連寺 ○鎌倉松葉谷祖師法堂 ○中開帳 ○四月十三日画并盤

定家菅系洞秋卒 平才法堂寺町 白泉寺小養院 ○五月筋達法門の針牛込代地代并并娘

心身問より針を出し 友二并の家を合以并を居をうてかたをさるる事とて事老より

徳針十に本を出て去年中谷小西町なる某種を不逞客とて所り時々の家の産物又二階二何と

も初れど夜々小便を滞り方あり又その某種を新右衛門町引福の時もとふかど初夜中

痛言時例を袖のく多形又ハ瀉室の下ハ小便を滞りたる毎夜の事あり一は外あり

事せせとるべしとていひる異國ゆもまことさくかるとあり

史記曰張嗣伯嘗開屋中呻吟甚嗣伯曰此病甚重乃視之見一光

姓稱體痛而處々有黥黑無數嗣伯還煮斗餘湯送令服之服訖

痛勢愈甚跳投床者無數須臾所黥處皆拔出針長寸許以膏塗

瘡口三日而復云此名釘疽也

警神錄云處士刺亮言其所知額角患瘡醫為割之得一黑石甚于

巨斧擊之終不傷故復有足脛生瘡者因至親家為刺犬所刺正

蓋其瘡其中為得針百餘枚皆可用疾示愈

○六月長崎より百兒齊亞國の産路院二次を渡り閏八月九日より西為國廣小

後不出くく看せ物と云 甄名カノエルストロソテリスと云とぞ平は時を看て和漢ニテ國今

後折るる九尺名二尺杜八尺北七尺と云後北七尺一重たてを物とせハ寒まめあれて乾くこと

えり堤宅山といひ人路院考一巻を著一梓おつり

ふびも病脊中の能の甲小似く千秋らく然んせらるる 加茂春雪

三十二箱ありて云々

○五月より夏ふいりて大早米價電揚以七月七日夜くぬる雨降八日夜大雨降降

正月より七月まで廿一度雨降一返之 ○七月朔日より回向院にて具立形性箱と本

除除院如來開帳 ○七月廿六日書家董堂致義卒 六十才年終中并嘉若婿小笠原松地虎

○九月十二日塙檢校保巳卒 七十才年号あり母子孫末宗國の門人 未の号より西の院中修了を小養院

○十月廿日書家岸幸晚翠卒 名政和一号蝶遊園 林春老也

文政五年壬午 正月閏

正月元日雪尺小湯川 ○正月廿一日辰中刻日暈再重為傍小虹あり已刻小

武正五年表

至を消る国正月廿一日又同一○王子稻荷社再興翌年奏成録○二月六日哉
作者式亭三馬卒 世十七才中町二丁目住号卒形卷
遊戯道人格菊地太輔

世をう多之備を力て甲乙を争ひ一二月八月小いりて停らる○春より尊極所
河原小いりて唐人踊のりや物を出れ カニく踊と云踊のまふ
大勢地の他り物をまふ

あも出れ徳人これを生似たり 再言の踊ハ大坂より始り方より一蛇をまあるのみ
法俗紀聞の國中小扱れるところありと云

うんくとしてる日おそくをるあつるのりくんとををまふく 蜀山人
わんくの水も分れを解まありと云とて句入窓の梅のうえ

○法藏前大護院之持明天王を興院太子園帳○三月五日より永代ちあく

加洲俱利伽羅山長樂を不動号園帳○三月より深川浮らるるを鎌倉斤濃竜

はち祖師宗帳○四月は月更人内田玄對卒 本四才
名瑛

○六月より森而戸田川出水○七月十五日書家沼尻竜涯卒 七十九才
名甚章

○秋山下
小笑布袋とりり見せ物也 切中名をの違り物もあふの堂に内ふ布袋のいねありる像あり
雨に腹をまわりぬるは強り倒すは弱しを公發の目を差し是より

○八月廿二日大風雨夕方津浪浜川木場辺二三尺

陸一上る○九月小石川赤城の林を移産多町より出れ練物多り出 十八日晴
十日雨日
十日晴日

○十月夜中街に小出て刃物を以て蔵に盗賊有り○篆刻家稲毛屋山

卒 十返舎九が作の道中椿栗元京和二年物編を飛先中よりあつて世のあつたれ
今年返小四十六巻を著し今くは四編の體は優く編を合せ五十七巻也

文政六年癸未

正月十二日麻布吉川より出火品川八ッ山辺に飛火品川本宿より鮫洲迄焼亡

○二月八日倭人素朴卒 九十六才一陽井五伝
今屋素朴より集れ

○三月八日書家泰星地卒 六十一才
名甚馨
稱保孫

○三月十七日十八日淡交二社控現宗礼 早余年目より
出る於郵集

先親の通神樂宗形あり産子町く出れ練物も花簾を争つり○三月廿一日

川崎年間方大師宗帳○三月廿八日より四月十二日追王子稻荷社再興
○四月六日太田南畝翁卒 七十五才名單標連三井狂言をよくし初名四方赤良といふ蜀山人
遠播山人杏花園本の数字あり哉此の古板十数あり世の知果不

○四月十七日より二日の名
齋行白山 辛二才名實 林健翁

○四月五日儒師葛西因是卒 中村勤之身實永の初身約より二百年目の考程言身約

○四月五日早天五
月中旬より霖雨 ○五月より日向院より攝河四天王寺太子園地 辛年目の園地あり

○六月十九日より近立出水大川筋大水 熊谷地切久保村と云処百餘軒流 戸田川の流一途を止む 為必持危く

○六月二日狂言師鳥亭
新大橋の半々をこり小柄系地義為橋の上迄あり ○六月二日狂言師鳥亭

馬馬死 七十金身和和 号隆洲楼 ○六月十三日曉林田仲町二丁目より出火 ○八月十七日夜八

時より南大風雨あり人家を損す怪家人死亡の者多し 小川寺橋較河辺大渡

家を没ししは少くは ○九月十四日山幸清溪卒 名正臣系の人少くは国学和歌の長 江戸より客旅中不終り案七十八

○十二月二日より知夜の方小慧星現る ○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火

折着西水の風烈しく二日河岩近定火消極盛一口八具板より五丁目岩城

升登りて止る其火直小字寺の所被り移り永田寺坊山王の門寺町極盛升虎

の所門近の岩流産の藩邸数宇南ハ瓶坂より赤坂の火消極盛同町二丁

目近焼立此夜平川の社年の市也混雜り小斗りあり ○今年更小雲

○十二月十三日儒師松下菱岡卒 七十六才名身号一糸 林清号并鳥石の姓之 不知 儒師情録郵卒

文政七年甲申 八月国

春より麻疹流行夏秋小重り引續風邪あり此夜更小落りす 麻疹ハ 本海乃

○二月朔日昼八時之三河町より南角景漬屋より出火一々西小

の風烈しくさふりれ鎌倉川岩を振町中町石町十町石後河町室町不

川町幸船町伊勢町小田京町辺日本橋近焼る この時荒布格教人押合ふて揮子 左右(園)水中二層八即死怪あり

○二月八日夜三音羽九丁目より出火橋本町目白坂改代町辺焼亡 ○此夜を去火

八王子寺野島彩田銀林 此夜を去火 大石の懸念

○二月八日六霊巖岳の辺不火災あり 誰いふとあく心月の来より流言

けりて此妖言の如く同日夜六時半時二月所南村堀二丁目より出たて漢揚
際遠焼る此所所火消國淨及以怪家入多く即死のりれも有り

○二月新改南鑑振通用始 ○三月十三日より儀草芝印ちふく京妙満寺

祖師園建并門も亦苑紀州道成寺の種清正公朝鮮より持来の文曼茶屋木

洋せしむ ○三月下旬より山下ゆく五重塔をせり上るるも物出

組込せり上るる中へ新修するの
○三月廿一日画人鋏形蕙商卒

名紹真や尾重跡門
人ありて始に北尾政美

○四月二日書六時吉東京町二丁目より出火廊中焼亡

被宅は花川戸町の崩座下
深川大形北村仲町表

○七月一束金通用始 ○七月廿二日八月十日十日大風る ○八月中霖雨突

東洪水 ○七月廿六日画人行桐處翁卒

正徳二年表

京妙満寺

文曼茶屋木

五重塔

鋏形蕙商

花川戸町

崩座下

霖雨

大風

桐處翁

如き怪歎二丈水より南へ空中を花形光有り ○八月十七日國學若清水濱

○今年夏末より花隠といふ画工あり

○九月赤城郡村桑後の時牛巡獲町小大サ又陰の獅子

○十二月五日書六時吉東京町二丁目より出火廊中焼亡

○十一月五日書六時吉東京町二丁目より出火廊中焼亡

○十一月五日書六時吉東京町二丁目より出火廊中焼亡

○武藏名所考法板成

○夜十八卷字本成

○三月昔金雕二巻張富久卒

文政八年乙酉

○正月七日降世捨所歌川豊國死

○三月昔金雕二巻張富久卒

○三月七日曉裂風中傳る町三丁目火通油町る冷町未熟焼○ヒヤボン
と号し銀少く他くる笛なる小児の玩と云一不律純笛 ○四月十日大風

○四月の始より藤八五文奇妙と叫て藤の葉を唐ふりの湯を穿り藤の葉を唐ふりの湯を穿り

○四月廿六日儒師太田錦城卒六十一才名元貞林入助 ○夏より秋に至り月を以て

人を威して益械町中夜番警 ○五月廿六日淨瑠璃徳元延寿世死徳元

元祖より徳元 ○八月九日中川由義卒五十才名遠業孫徳五郎 ○東近郊園板石一枚板中田惟善撰

○八月末南小彗星現る○十二月十九日夜五半時葺葺町標芝居より出火あま

芝居焼元大坂町甚左衛門町住吉町人形町の辺敷焼す○十二月廿七日

儒師河原遜海卒九州の人あり

文政九年丙戌

美濃く地震○二月大雪二夜傳○圓向院をわ洲名振荒人神楽焼

○浅草唯念より中野高田山如來開帳○六月九日儒師龜田鵬高卒

○秋又地震数度あり○今年遊女出菊が百年の忌

○七月九日暮時神田松田町より出

火南風きて赤井田町顔焼以○十月二日狩野素川彰信卒○醫師史觀

盤水卒七十才名信と稱し赤野菌化の門人ありて蘭學を學ぶ

同十年丁亥 六月閏

五月二日夜九時迄葺葺町より出火あま葺葺町標芝居標あま居標町芝居町

人形町通片側大坂町甚左衛門町之焼す○二月國學共相念惟徳卒六十

○葺葺町夏より秋の爲上の宮井火文開帳印戸より赤清より金

○葺葺町夏より秋の爲上の宮井火文開帳印戸より赤清より金

○葺葺町夏より秋の爲上の宮井火文開帳印戸より赤清より金

○葺葺町夏より秋の爲上の宮井火文開帳印戸より赤清より金

浮名名古も用姓あり ○二月九日西窓光のま主雲堂卒 七十五路山水を画く

○三月十日より浅茅も新世言宗性 ○牛御前王子権現園性 ○深川八幡宮性

○肥前國上益頭形久松石田村産火堂武左衛門といふ大男江左来 今年

火七六寺量二千五貫目手平又守是名又守宗 今 ○南越入所武松縁之助播妻雷

五郎横綱免許 ○七月奉旨五日自右月東側火除の為町家と形排せられ

達所外跡は法門の外様田本は跡に代地をある ○九月神田町新宗礼法

産系止し附系十六番所は成るす所より一雨を災 災物ニ踊臺七條物六と定む引万

文政十一年戊子 災と稱する物は時より止む

正月八日夜浅茅幡隨院の辺より火火とて又未迄新焼を院西窓まで焼亡

○二月廿五日時村田町武丁自湯屋より火火一東風にて西村田町一園子

新焼一又北風ありて本浪町本町石町駿河町室町の辺より夜亥の下

新焼 ○二月廿四日坊上より方丈火 ○春川の善光寺如來園性 門前船渡の

後橋 ○山王所系礼附系今年より廿五雨より成る 一とあり ○下谷小野懸寄

の社地へ石を疊て富士山成築く ○七月八日持邦伴川院法中栄信卒 五十七

○鎌倉八幡宮御再建成 ○十一月廿日等覺院抱下人逝去 六十八歳と云え

卯雨華庵より小尾取老琳の画風を 各基稱文系 ○儒師菅原宗海卒 九十九

同十二年己丑

今年の大小元禄十年不同トより きうく 角が火燈を く の向て せん 佐利と

くろ ○正月十八日大雪 ○二月十七日大風青羽より出ず 十 粟鴨の辺連焼亡せし

○三月廿一日北風烈く己の刻之村田依る町武丁自の岩の枝木小屋より火

出て村田川を捲く東神田武家町並一系小焼とより東の由國橋深濱町辺

武家方より永代格と系近西八瀬田町通り石例抄り東例より今川橋向

本振町本町の岩形地端通教寺屋指外延南の杉檜垣留迄を渡りて
 一は石の所々の本町石町大橋の町小橋の町馬喰町横山町辺一系隈町草
 登町為座芝居宇登岩辺小細町八丁堀靈叡島鉄炮洲築地武家方西
 門沿より先海子小まう細島連木松町芝居系指新橋辺町及新橋小及正
 聖廿二日於終火武家方於焼野々南小九二里餘東西二十餘町焼死溺
 死の輩亦九百餘人と云り此救の小屋九ヶ所を建て新焼の貧民を救也
此時紀州の野山に燔死群冥菩提の爲小
 吊せり石碑を建て

四月六日未刻南風麻布長坂より
 出火版倉斤所麻布谷下辺赤坂溜池黒田家中郎源延焼亡々方雨降る

○六月十九日より三日のる回向院にて焼死人供養別時念佛修りあり

○當三月類焼の町々集上を以て龍岡町より元岩井町迄のるを除の土子茂
十箇不ふかてり熱あ合て五百幸餘る
 ち二丈の端六尺鋪九間あり

園地
 中大

火中四月七日連同焼
中後再開焼あり

○六月六日狂奇堂真類率七十七人 ○七月一某浪通用始る小川本堂

○八月下旬大川通出氷子位住来留る ○十月程方所村回庵厚磨修外回
 指町

此年同紀事

○赤坂大園侯は藩詰中豊川福右有馬侯は藩詰中氷天宮御前池田侯
 造る ○神田明神社地小富士流石社を勧請し六月朔日奉詣始る

○赤坂大園侯は藩詰中豊川福右有馬侯は藩詰中氷天宮御前池田侯
 結玉瑜伽山大権現園原村大聖院不動寺本々表福右親世音本祈能
 勢發妙見宮本系詣始る又西新井地持る弘法大師牛込町南院

○赤坂大園侯は藩詰中豊川福右有馬侯は藩詰中氷天宮御前池田侯
 聖云宮谷中吉祥院重天宮月正正覺寺鬼子母社信人の遊ま系詣始る

○赤坂大園侯は藩詰中豊川福右有馬侯は藩詰中氷天宮御前池田侯
 ○赤坂大園侯は藩詰中豊川福右有馬侯は藩詰中氷天宮御前池田侯

院茶師如末小兒出封トの加持とあり○盆程のね茶茶葉茶年音初とあり
救金とて賣買ハ又南天燭の異事と弄ぶ千筋本極本茶葉茶葉盆程のねを造る
の工多し又南天燭の異事と弄ぶ

○籃袴の法帖流行○本布の汗手拭とあり出火寛永の布の汗手拭とあり
この件本布の汗手拭とあり

昔ものり○炭と引晴と小用とる傘のり○川越箭弓稲荷社下総駒木村旅仿明後津川六郎
堀一とる

社社江戸より多信人多し○後茶平右衛門町小住後津川六郎
堀一とる

の色々の奇巧と茶下造り出火中内四人を以てて四十六と春一むるの器又自在織と

号一居あつとみく織織る器の奇巧とありくまの四隣をききとる一自在織ハ
價もきむるなりとれす

を刻む器と細糸と簡易小作の二器今有りを刻む器ハ
價もきむるなりとれす

廢是彩色の曼花と画の桃灯のり和紙の布より新技本町小住とあり
この布より新技本町小住とあり

といふ字謎あり合されハ廿三とある有廿三とありこの布より新技本町小住とあり
この布より新技本町小住とあり

○白金三銘板の山中庵頼司若の向耕向耕ハ古き料理やあり一々あれも文政中ハ修り
晴面計といふ小き本偶を高くするものづくを以製ハ雨隠雨自修不修とあり

○文政始のりより大坂の石田玉山が子墨田玉山修植江戸下りて社田修植所小住一けるが

或日家を以て後ゆふば常小住とあり瑠璃一夜の怪とあり或日家を以て後ゆふば常小住とあり
瑠璃一夜の怪とあり

○祚のの桃灯小画の巴を画く○祚のの桃灯小画の巴を画く
○祚のの桃灯小画の巴を画く

○一字も以て小住とあり○中寄修福再ハあり出火○日暮石古坂中ハあり出火

天保元年度寅 三月 十二月十六日改元

正月十四日夜下谷啓運と火○三月町火消火股大伐鋸始三月町火消火股大伐鋸始
三月町火消火股大伐鋸始

狂舟師六樹園飯蓋車狂舟師六樹園飯蓋車
狂舟師六樹園飯蓋車

○閏三月晦日雷雨下谷の辺ハ雨あり
下谷の辺ハ雨あり

○夏の以寺院ハあり夏の以寺院ハあり
夏の以寺院ハあり

○竊小石塔を磨竊小石塔を磨
竊小石塔を磨

○秋より浅草寺二五門修復秋より浅草寺二五門修復
秋より浅草寺二五門修復

○秋深川秋深川
秋深川

降ふより甲州身延山祖師開帳 ○八月十七日麻布一本松氷川町社奉
祀四年日中く産子の町より出たり物未出る ○九月廿二日夜雜司春

野乃院失火 法明寺祖師堂救逆堂を外の中之に焼亡
鬼子母律堂并末社の町を焼く事あり ○十一月朔日為新井徳持

寺焼供養撞始なり 俗俗群集する事おびきり ○十一月廿日画家觀高月

卒 七十余才名常雅晚年景綱と号
其二峰の山に深川陽岳と小巖あり ○十一月廿二日夜中筋粟川町より出火砂村の辺

追焼亡 ○十一月廿日己中刻橋町三丁目より出火若木町横山町細町を餘武

家方未焼 ○十二月八日夜下谷所切町より出火幡隨意院寺外寺院

町を焼亡 ○十二月廿二日夜四時小傳る上町より出火小傳る町より目大

傳る町二丁目通旅の筋町新枝木町塚町草屋町を産芝居寺外焼凡

六町小一丁半程焼る時七ツ時終る ○この冬より小伝るあり十月
以来九廿八度不及

天保二年辛卯

三月五日より十九日追龜戸天備宮開帳 ○春より淺草本義寺にて甲辰山利本

那休息村立山寺祖師開帳 ○築地の石橋南千二百坪餘新親埋立地ある

○四月深川要津より為良大妻の森下町に糸綿の裁層より製する本紙紙といふ物を

講始む ○七月朔日遠山荷塘卒 二十七歳長谷寺の僧内外の著籍小法師又洞曲月
琴を善く北西廂記淫歌月琴考胡言淫語本の編あり

○七月廿二日儒師西服棠園卒 名簡称松右五門
六十九 ○八月七日戲作者十返舎一九終 重田
氏名

貞一下谷と云居居終る小巖に中東陽院檀越あり
辞世此意をいりやと聴かせんとらむにひかへて移る ○九月十二日より極の肉妙法寺祖師

開帳 ○日蓮上人五百卒年忌供養法苑宗徳寺勅祈 ○寺橋所門外小座を親世

大吏勅進能身あり十月十六日と初日とて時天十五日の万身ありの定あり

○又中外の翌年より日教の外日延身あり石の六月より信 身移の日異妙
羣集せり

○十月廿二日善里修性院の庵中小座を系師より下り不還堂といふ大字

雲の字を書 堅廿六万核十九万仙の紙を方武子校終
基七之三斗草長武万朱廿廿年終あり ○十一月廿二日曉上野所奉坊火

○十月廿九日夜本所石原町出火大久保度下中死於燒

天保三年壬辰

土月閏

正月二日曉五郎を燒所より出火北餅屋町南條町白魚屋邊に外敷焼

○三月より浅草草葺き少く下総駒木村後防町神田焼○四月十七日より三月は

堺所中村島三拜芝居十夜目お續の毒ねを身死○五月廿日浅草新町本所

とて豆及出法華を組而焼○秋高徳泉岳寺山門再建樓上小十六羅漢の像七排列

○八月十七日麻布氷川町神樂礼花中一遊物不出る中後中絶を○九月廿如來

ちの寄依を燒といふ若狭火の要具とて水車樋と号し井の水を繰上り器並ふ

逆柄の柄杓を賣始む○十月新次武藏金通用○冬浅草を觀畫者焼

○九月廿一日下谷徳泉町千束稲荷の素小終の花出り物を出りたり

吉原西の家の娼家より是を乞ふを屋上へをり遊女禿若若若合十六人焼

落けるが各重死融せかゝむ○十月浮世繪師折川重信卒 半余

○十月琉球人來聘 正使豊見城王子 前王の使澤祇叔方十六日江戸列島の日初雪傳雪中

氷川歌みく雪いと白くうらり積りて成る

武藏の糸と雪のうらり積りて成る 豊見城王子

まご 奉りたり日

まご 奉りたり日 日本

○閏十月十九日寅刻糺町出火夜焼○冬風邪流行後民に救米抄せあり

○續徳家人物志刊行 志新東里著之先小系の池永某が所 日本徳家人物志の後編也

同 四年癸巳

二月朔日より寺島蓮花さめく富士山本為大日如來焼○不忍池弁天

焼○芝泉岳を新込八相曼荼羅再焼 外西妙井徳持方如法大師

上り芝泉海舟才天王子稲荷神本下川茶師如來 日向聲明神多摩郡

井の尻舟才天、新為越安盛寺妙見宮宗開帳○山容正法寺老佐渡家系祖師開帳
 ○三月九日より儀多孝龍寺少く系於本國寺祖師開帳○同廿日より永代
 ちんく下總成田山不動尊開帳を納寄進の品夥し○三月七日よりね及び
 の島下の宮舟才天正法江より諸人多し○四月朔日より永代より
 葛西濃江村親正の客人権現開帳○月二日より回向院より下總法苑
 寺祐天上人像并地蔵尊開帳以時方より教殊をいさる殊のたまふ○四月五日
 淡草寺あり太恭廣隆寺聖徳太子開帳○月八日より深川淨土より小
 田系淨永寺祖師七面明神開帳○四月十五日羅漢寺三市堂修復成今日
 昼時之中尊の親世尊像を遷次○六月淡草寺六天祭礼今年より
 昔の如く神樂を渡次○篆刻家益田勤政卒七千才名侍 字万頃○此夏靈巖島
 東湊町の先小川辺靈神とてある何の神とも知らば一時小系諸群集しけ

るが終のちみしし止り或人の死小川を渡り水中よりより一縷縷を○七月半の以

たり湯島根生院の屋上樹木の中まゝあやと首せ川辺小水改ありことり小葉昏より雀数百ふとあり群り集る或人の死小川を渡り水中よりより一縷縷を

○八月朔日大風も家屋を損下樹木を折る深川三十二万壹半分倒るる
 怪家人多し○今年米價也極し負民所救の米砂を揚る事度○十一月朔日夜

被民能の米砂を谷中長輝山感應寺護國山天王寺と改む○十一月朔日夜
 八下地松下町代地福本とりの酒樓より出火近辺焚焼せり

○江戸名所圖會梓行此書の寛政中祖父長秋居士の遺稿先考縣磨の校訂あり
 至終ぬく成りて降ふ不及いさりりの先考没後遠稿を降せり○席中不憂ねのわが若
 冠の以あり烏馬の隈砂の先考没後遠稿を降せり○席中不憂ねのわが若

天保五年甲午
 正月七日中村佛庵卒八十才名景連林録を著し○二月七日小風烈し

天保六年乙未 七月閏

正月十一日明六の神田熾燭所より出火皆川所永留町松下町三河町等
丁目二丁目豫金河岸迄焼益防おたつ ○同月廿二日子化中刻若系南町
より出火廓中焼く焼亡す 板尾花川中山の宿聖天町東仲町門前裏へ若田永町
等より三日日障りありて名地へ移る

○二月八日谷中茶屋所出火 しほ葉屋
一日焼亡 ○二月九日林田町林所夜より出火

聖堂取より河原迄焼亡 ○三月十日夜四谷々市谷迄焼亡 ○三月より

浅草寺義寺より強及沼津妙海寺祖師堂焼 ○三月十日より不具池系寺

大層焼 ○折島妙見宮焼 ○四月朔日より三圍橋為焼 ○四月より渋谷

長谷寺より系為羽觀世寺為焼 ○四月より目黒正尊寺鬼子母林焼

○四月廿八日書家園光明寺 寺より移る
号儀南 ○五月より芝神明宮焼肉より

系部六波羅密寺本寺親世寺為焼 ○浅草寺奥山小韓信市人の跨り

潜り所の木偶とく色物 人形大二三尺衣裳経紗袴紺木の前を用ふ
と糸細き糸のしるべありてこれより物少し

○六月廿五日未刻地震 ○七月より浅草寺義寺より柴又村歌純寺帝釈

天板寺為焼 ○同七月朔日より回向院より豫金覺園寺某師如來巨像并

日光月光十二神乃古佛堂焼 ○同七月廿日将谷掖齋 寺より名望之内外の寺に
一人之神降を云ふ

○同七月十八日曉地震此より地震あり ○九月より龍山小長曜山感應寺所建

立花 聖年ありて本堂撞接徳門借房未だなく成終 ○野洲産人參の形を賣困の病人并

給 官医石坂氏
製法 ○十月廿九日夜上野山内火 ○十二月八日夜下谷金松石編為の

辺より出火金杉通り迄焼亡

同 七年丙申

二月九日己刻地震 ○二月十六日より芝泉岳より八幡曼荼羅焼 ○三月朔

焼亡○江戸買物獨案内三冊持行

天保八年丁酉

札幌小のき吉年より賤民に救を下しある事度之○二月狂言師文舎解

子九卒久保氏○津川清心寺より身延山祖師開帳○八月薩摩燻燻始む

魚鱒と号以○渡瀧行○八月十日日初より大風の人家を損下樹木を折怪我

人多く方小いりて寝る○九月神田明神所祭の内橋本町より月より籠細工

の身物と出流（寄家娘の趣向まで意主と様の人形之類より身具衣裳若銀木小刀の
近悉く籠より送り繪の具ありをとりたる之類より身具衣裳若銀木小刀）

○十月十日辰初規吹まゝる○十月十九日晚六時吉原江戸町二丁目より出火

一系焼亡（飯宅山の宿花川戸津川八幡本あり
三百日限り元地より）○五志別新規吹まゝる（十一月朔日より
通用とす）

○十一月九日夕八時之地震○日光山志五巻持行（横田十右衛門
正清編輯）○関八州路程全圖（一持
行 瀬井喜照著）

同 九年戊戌 四月間

正月十五日秋人行岡寛光（林周彌又権太郎号都子園
傾城の慶蓮より小暮次）○二月廿二日明六半の振陣の

お茶振町より大宮永町七軒町等外近辺より院焼亡○三月廿より半島白粉

明神開帳○月十一日より新寺町五泉寺より中徳番取妙真寺祖師開帳

○十七日より回向院之井の改弁又天海院（境内より人形師泉目吉の細工まで名々の
要死人を傳りてせりの）

○月下市谷茶茶木稲花神の祭（林内の送り物ありてお供のまも
小宮物の形をそそぐ）○二月信綱在浦新規

○四月十七日大風午の刻に小田原町武丁自湯屋より火火一始小風かりに

南風ふりり伊世町船戸物町本町石町本振町辺より今川橋通り西の鎌倉の

岸小川町武家方面神田町一系焼亡空町の辺に夜戌刻に焼る門取より焼る

○同四月四日夜廻町出火○五月廿一日より永代より武州多摩郡長瀬郷玉

川明神祭帳○同廿五日より回向院より紀州加田淡島明神祭帳（掛まで紙雛の形を
紙不伴く納む）

○酒入降 鈔うり 板市中 小備り 酒を製し之集ふ家多し
板市の半途より止む

○八月廿五日大風各地震 ○十月日本橋 去年二月大坂より奉りし 何某が一件
落着の捨札五つ

○十月九日十日陽高天満宮地主 戸隠明社祭出たり物
何事か以遠をのり物群集し

○十月十六日大風朝後 茶所 既何岸渡り船一艘
覆りて人多く死に

○十一月八日夜水谷町より出火 佃島迄焼亡翌日已刻終る

○同九日夜市谷左内坂出火 ○東都歳事記五卷梓行 月峯著
長谷川雲且茶室撰画

○江戸方南註解一卷梓行 二遷著

天保十年己亥

正月十一日雪二尺守極積る ○三月朔日より龜戸天満宮因幡

○三月二日西南大風赤坂花見夕七ツ時小石川若花谷より出火 駒込馬士前より

武家方組中 死町屋とも以夥しき乾焼之 ○三月三日より青山善光より

一光之為 孫院如來因幡 ○同十日より千駄谷仙壽院鬼子母社因幡

○六月十七日より 回向院より川傍 平間寺弘法大僧因幡

○相州 江の島舟方天保 徳 ○四月 為國橋所 豐清成 於龜井町の

住人形師 末吉石舟 九十 是妻とも小渡り物とあり 石舟ハ誰の人形師にて是物
根舟の細工も名あり

○六月十七日より 麻布 廣尾 天満寺 毘沙門天因幡 ○神田明社社一の為

居建設 金三郎 ○六月末上野中堂の後 三抱をりの大木 風も吹たり折る

○十二月朔日大風 益時 邑江谷 恭宗より出火 青山より延焼 牛馬

○十二月廿六日 白雲堂院より出火 白田辺町 延焼 穴八幡宮の樓門焼失

○同廿七日夜 吳服橋内 秋元 彦は 藩邸より出火

同 十一年庚子

二月廿八日より 王子橋 若明社 因幡 ○三月朔日より 元坂田町 世継 橋若明社

閏徳○三月三日より小石川牛天神閏徳○同六日より浅草寺町正徳寺より

下総大野法蓮寺祖師宗徳○月十三日より浅草寺東泉寺より伏波源宗根本

寺祖師宗徳○四月より根津権現山内約込稲荷明正宗徳○谷中妙福

寺祖師宗徳○四月朔日より芝野明宮内より天海宮市華の像

閏徳この時境内よりありし正徳寺を遷す○同日より南善村慈野十二社

権現本地親世寺宗徳○五月より麻布善福寺岡山像閏徳○八月十五日

芝田町八幡宮宗徳産子町より出た佛物本出はる後止○八月十日料理

仁宗尊徳成徳高奏とす○九月七日夜五時元般寺屋町火尾張町近於焼せり

○九月十日朝大風雨○十月十三日浅草寺本堂修復成徳より今夜固下刻

本寺念佛堂本堂修復中本堂より遷座あり遷座あり遷座の外の事あり終て將時宗

帳あり道俗群集此時本堂本寺我徳は東條宗親の推茂鬼女の歌宗無文祥が草の園相親終末世宗の縁縁の歌ありし事徳の時とす

○十二月十四日画人谷文晁卒号写山樓又畫学故羅琴一と文の保と云浅草深草の事

○十二月十八日新田明神社修復成徳不付く亥刻遷宮あり不深堂蓮翁著一卷

○羽州新庄二石村百餘林助が孫名以弁として十に才ふありの六七年前より左眼自在不出這

て眼の玉大きす餘ありて一に物より眼一組とや浅草寺文と楳のつひより不出一宮

地度場ふいかり○繪本東都本化乃坊紀持行不深堂蓮翁著一卷

天保十二年辛丑 正月閏

正月六日夜四谷新算首町より失火四谷竹町外麹町不焼羽聖院

追焼家○正月廿七日夜根津門前茶屋町焼亡○三月より信通院内福聚

院火災天宗徳○三月廿八日より浅草寺親世寺宗徳奥山と蘆馬と見せ物と云又

善蓮生像宗徳○四月より青山善光寺より杉木光昭寺親世寺宗徳六月十五日

○護國寺親世寺宗徳○四月より茅場町某師如來宗徳○回向院より越

後田若守も大師御帳 ○浅草新町出泉寺より

○五月十八日屋代輪池為卒 名弘賢孫大良書院學小 ○五月より坊間の法度中

古小復すべき旨を令せり 此の御多りぬ ○五月廿九日俳人大梅居士卒

七十才始小山人ありて梅外又克徒特を若くして後道彦門は入て俳諧嗜り所為翁の富商小島在

爾と助少りし家表て後元大町小所一房母と号して榮子を售ふ孤山刻為木の号乃勝を中修

長流小華久深川長共るお碑あり門人卓郎建々 辞世 七千や ちち宛の中流枯尾也

六月より浅草念佛堂よりて品根荒

人神閑情 換内小大坂細工人柳文三の作 ○九月神田神倉札の時今年より附み十六

と致し三巻和と成るきや和より三和より出 彌蓋地走り踊 縁地の 浅草新町

始 浅草田東町源水三巻和むむ北化四巻 ○あぬの曲ハ万葉打未さぬハ山が 樹一

帆信あり又橋の曲ハ三重ハ道あや松十ひ打板こぬの曲あぬより草の先三巻の巻際り

かんせれたあゆ 扇唐子遊以遊子のりあぬり大いぬ上初年の番組ん見んかかかかかか

○九月末國橋為廣小路へ紀州若山の生れりて齒力鬼を屠つといふりのりんを物

小助の磁器の釜焼を嘯刻り或ハ鏡の鏡取せりふより人守御重物とくるとん

自立小振ふ又浅草寺の奥山一狗馬とてつけく曲るせ案り後小馬人とも小宙小狗上

るりを物も出り ○十月七日曉七年時博町より出火為産芝居堀に古町町元大

坂町新和泉町新案物町中江新焼 ○十一月晦日夜上野大佛堂より出火佛

像焼損ト堂宇焼亡ハ同十四年所再建あり 意満倉室を上人建立六地蔵の一程 英弥勤弁の像も焼て再建あり

○十二月菱垣也船仲り十組商人を條具加金上納免りり諸商人同船仲り所傳

止あり ○十二月十七日大雪三尺程積る浅草寺年の市僧人妙一

天保十二年壬寅

○新曆頒行 天保壬寅 元曆とん ○正月廿七日大風の方深川山幸所尾花登

新焼あり ○二月廿五日より湯島矢時宮閑情 ○去年十月博町草登町の芝居

焼失後あ座并操人形座浅草山の宿小出慶下下屋鋪の地引移るべき旨の

命令ありしが當二月三日同下りて勢地を下りぬり 四月廿八日より町名を藤若町と 号し本橋町の芝居も遷るあり

引く事よりして二町分給地取許を万幸八坪餘とす此の意中より昔の二里塚の傍よりありの古井に
十方より一丈竹の山より又諸川の舊地と稱するものあり他を置かず小堀を建てる小出家の山の中より竹の山
移す事よりして是より後、新築後若他町の住居を移す事ありこれの三町の内より住居せめり又途中編とす
やうららちのれもむらむら山の宿とすまわとよふ子とす

○三月朔日より、水代よりして津奈川觀福寺備前 觀世音開帳 ○月二日より日

石川小日向の迎邊集鴨が京近武家町を寺院多く焼亡に焼死怪象人騒

○三月十日酉刻本町回向院宗元町屋上町焼亡

○三月十八日 官府より命せられて江戸端々は料理茶屋廿餘ヶ所取掛約九

女八吉原町へ今八月迄は實引掛ひ吉原へ引移りて娼家と △深川仲町仲町と稱せり △新地山本町より

△古石場越中 新石場山本町 橋下山本町 徳打場松村町 河ひみ陰

名佃町へあひつとのふり首房及び睡蓆那の船歌 △本新お天八并屋中れ 松井町河川橋

吉岡町吉岡町鐘撞堂鐘撞堂 △滝草堂前鐘撞堂 △三田三角高倉院 △麻布市立濟町

此れよりおふ塵れよう △市谷おぐ谷谷前 △根津つち△谷中りおは茶や茶屋 音羽町

△較々橋△赤坂麦め田所之遊女の首よりよよとりのふりよの者り

○三月廿二日小大風量時高梅橋花つあより出火赤川新宿小赤川崩乾焼亡

○中野宝仙寺不動尊開帳 ○四月朔日より高橋太子堂唐申堂福新社宗帳

○六月より回向院より南都法隆寺聖徳太子御帳靈宝殿の拜とむれれ古物あり

○六月十五日山王済宗礼済庵約中始り附宗女ヶ所高其深川の岸にありて礼拝候と

ありしを二組に改めまきお三下 ○六月大付了町小舟町牛頭天出出旅出のり高年々

五ヶ年のる体む林田社にて居あり ○七月十九日戲作者柳亭高谷種彦種彦は并

赤坂浄土よりお舞赤坂浄土よりお舞 ○夏より秋より早天泉水の水枯く池中の魚死する不慮

○八月猿若所標芝居初鳥猿若所標芝居初鳥 ○八月福池上白山社取拂 ○九月猿若町寺

町中村劫之市日二丁目市村羽名清つが芝居初鳥

○八月猿若町標芝居初鳥

○九月猿若町寺

町中村劫之市日二丁目市村羽名清つが芝居初鳥

町中村劫之市日二丁目市村羽名清つが芝居初鳥

揚内より出火五節を傍町より事所白魚や、凡小井登町弓町の辺一系尾張町
より本松町西門前の際武家方追報座町本松町山岸屋介救急心焼亡廿
八日於東風より勢り救急座町本松町加賀町山五町九登町出雲町の辺於燒
夕七つ時を移る。○古金銀紙幣判式米銀を米銀未通用を傳ふる。

此年同記事

天保七八年の以より日本橋四日市為福前町林美談ありとありとて形勢を
こむる若陸晴を様とて群集し又文政の以より四谷新宿の山正文院小安を
る所の奪衣婆(口中の病を移りて美談の若をり)とて永の今よりり
殊盛よりり諸祭を祈り日米百慶系の事(通)○雜司谷法明寺塔頭毎年
十月合式の佛物止む○神社佛閣の富興り文政中殊小盛よりり救十を及
ひしり天保の末より止む○因細村の梅園を様(救百株を栽り)和合を定(每

奏遊観覧
○獨搖天竺牡丹ヲキサといふ事あり
○浮世繪師國芳が草の

○蘇茶の會あり
○現在の文人墨客諸藝人又諸售物も成

○六字南世右衛門左門よりり流を
せぬる女をまはれて場を様(る)をなす
○浮世繪師國芳が草の

○横縷の深物なるる
○近世文墨の士殊小多く名流達士も随て胎う
○人情本と唱へる男女の私情淫奔

○近頃月琴を彈き
○皇朝嘗て弄ありしよりり

○皇朝嘗て弄ありしよりり

養育も次第にたゞりあり毎年正月二月はを我領ふとあり下下の香を
兼亦ホ小令しく有る美悪を論一風流の名を設くを以て其日山と号し
るのむね妙ありて天下才一と稱す三笠山と号するの是又異りとて隅田舎
某まを淡一巻を著し畜育の法を修養の端委しく考へり

○寒暖計と号し四時を暖と量るの器なりりたる兼人持信りの品ありて
本邦にて製し始るるよし○深川仲町一帯の傍に五ノ塚山を毀て町を以て

弘化元年甲辰 十二月十日政元

二月より牛の所前王子権現開帳止む ○淡草寺町本務より上総玉藻

系妙光寺祖師開帳 ○中延八幡宮開帳 ○龜戸天満宮開帳 ○妻小夏ふり
あ園橋西廣小路小太るる仮を據り約中一井深草治下谷の位
マイくくを交へて見せりといひは物山の如し
これ小續ひく淡草寺に在る奥山に傳はるといふ
約中一井深の趣向小ありし約中一井深と云ふ

四月五日夜九時小

石川下宿坂町より火にて約中土物店近敷焼

生月縣を焚くといひは撲取来る

西廣小路芝居小屋崩れて即死二人怪人救ふり

小田原町一丁目より火火伊勢町御所物所室所敷焼夜九時終る

曉八時田所町湯屋より出火くく元大坂町長谷川町深草清町元濱町油町等如

町等深町に岩近敷焼朝立所以終る

○七月廿八日能師田喜菴護物卒

○越後の若男女の俳儒不踊りやをどくせ向あ園不於く着せ物といひ

○十月より泉鴨

深井兼の造り物再び始る

○十月十七日より王子橋新町林開帳

戸小末の浅草親善堂(揚香の額を掲) ○今年長壽の人水口寿山百才 末吉石舟百才 花井白叟九十才 大岡雲峰八十才 前小夜為一八十才

弘化二年乙巳

正月廿四日水風砂石を飛ハヤハ昼八時之青山権左丞續三郎所武家地より出火一々一兩小焼ひろく或飛火ハヤトマ麻布三軒家一本松を辰辰辺六本本龍土市並所横田町永坂辺廣尾白金魚藍親善大信子の辺二本榎伊豆子後町宮橋并田町小焼亡く海を渡る夜入狸穴三回の新細町の辺焼亡成下刻結る武家神社救と初より所救百廿六卷町焼死怪家人或ハ海辺の者奇候の火不宅れ海中不入溺れ死とりのと合せて幾百人といふ事を知ハ赤羽橋の側は救の小舟を建て焚焼の真ひん民を育せしむい 昨夜何れの家よりのがれ出見荒橋正人辺の中を狂い走りて某度の席内へ進入し某臣い 信某父子二人おては留り又ハ火事の時白金堂町下月禪宗西樂子の裏門不掲る時のん越師の尊尊明山と隸宗より出する扁額火中ありて焼る時九年仍人坂の火不宅れ焚りこり今年ハ門焼落る額の、焚り焚人ありて瑞雲寺若福寺麻布氷川社を焚る子堂庚申堂

稲荷社象岳如來 ちあり残りり ○二月雲巖高又築立化成る後町屋を建て富橋町と号電

和町江川町橋本町辺小傳る町塩町油町田原町堀留町新林本町より長若川町宮砂町辺ありりは十九町の敷焼より夕七ツ時ごろふりり結火ハ

○當年閑帳ハ二月九日より牛沖前王子権現去の跡 同日牛島蓮花を弘法大師日取 二月廿五日より井の沢赤天同廿八日より同是不動尊三月三日ハ川口善光あつかり 如來あつかり 今年半堂の下とて極て戒壇せりや 同五日より浅草寺町泰宗寺某師如來日九日より古妻森古

妻権現日十五日より橋上寺芙蓉例赤天日廿日より川口錫杖寺天満宮地蔵寺 四月朔日より芝社明宮内赤天日日より津川洲崎赤天同日より品川海

晏ち赤天さめづ 鏡次親善堂跡院如來四月より出村本儀鬼子母神五月廿五日より 葛西柴又村帝釈天七月朔日より愛宕山内赤天山の下岡山堂 右何れも自坊

小松屋兵衛治り ○七月より浅草寺町正覚寺より中山鬼子母并宇佐木氏
 廣尾又現る鬼河川又目黒高嶺より金毘羅権現開帳 ○八月十日より小石川
 白山権現移る八幡宮開帳 ○三月十五日よりわが町の橋上の宮并又開帳
 系清多し ○五月浅草寺五重塔修葺 ○九月牛島町に裁木屋と院あり
 菓の造り物あり ○九月猿蓑町より聖天宮表門の通一志直小路を
 ○十一月廿八日俳人自熱堂風朗卒 飯多住持常盤屋新井
 といふ谷中又常盤屋新井 ○十二月五日暮六時吉原
 赤町武丁目より出火廊中焼亡 飯宅の龍川庄山の宿屋五町丸
 谷津川八幡町同左野町八幡宮旅所
 陸奥中ノ沢町の袴中入江町若菜町
 八并を清盛谷 赤又天方 杉井下あり
 後成く引移る 飯宅の二百五十日限りとて元池
 永積長家三長女とといふお茶屋を補元長家と改む
 ○十二月十一日夜坂本町より出火茅場町表裏茶師境内焼亡

弘化三年丙午 五月間

今年正月元日より三日迄の百牛房小毒ありといふ俗説あり
 ○正月十五日北風烈しく砂を飛ばし夕刻より小石川片町の小武家地より火
 て丸山へ移り本妙寺菊坂の辺より本町野町より元町辺へ本町通り湯島町
 赤木町辺神田明神門前 神田社様の境内社無湯島
 天徳堂聖堂の事 後花町仲町の辺より湯島川
 駿河基へ飛て小川町へ焼込東西神田町へ一系焼亡 今川橋向の本町石町堂町大
 傳馬町小田原町小舟町堀江町小堀町茅場町八丁堀濱町永代橋際連雷巖
 島龜地鉄炮洲佃島 本町の北
 中島 南へ堀小いなる為へ江堀通り神田より一石橋迄日
 本橋の向の通一丁目より五町迄系橋より一系焼亡行る小色れ町へ連連と
 行れとも移る所あり翌十六日の晝九時迄炭町の井海者まで焼つ長九一里十餘
 町大小名は蒲邸敷七都江町枚武百九十餘町焼死怪赤人較り小いと及り湯
 島田満る三層の多宝塔 山の上へ建
 多宝塔あり 又妻島橋荷社 道に再建と在
 社あり 也此時焼入り

○新焼の貧民の救の小屋三ヶ所一建てるに生除の候民も米糶せあり（米の糶せ負

○正月十六日燔魔（米糶せ負） ○三月より深川八幡宮開帳 ○日御傍在大天本社修復成就す

開帳 ○三月十五日より後草八軒寺町大園寺より川越在々戸妙昌寺祖師開帳

○三月より米代寺地七波り糸才天開帳昔海（一）出る高きたつ以に城の辺より為社

○四月三日より陽島社内より埼玉郡野島津寺地蔵菩薩開帳 ○四月廿二日御師

小養庵准嶺卒 ○五月晦日園原大聖院不動堂火（米糶せ負） ○五月十七日和奇兵

國学者鎌倉植園卒五十八才御子法師始者奉大隅後幸姓於田小政称 ○六月より日向院

内一言親母者并茶茶芭才天開帳 ○蛛の糸巻成字本（米糶せ負） ○六月より日向院

○夏の半より雨整くして晴る事稀に六月下旬大雨降降き洪水溢れ出く

下総羽生利根川通り堤の辺九尺餘りと聞て廿八日子上刻葛飾郡権現堂村

より六里上本川役村堤切は洪水漲り出子位辺家屋を浸し小柄糸の石枕を

高肩より上の河を築物の辺一時水溢れ床の上二三尺をり小及六位居を
ら外へ逃還くを溺死のりはも有りて一日本堤より出る小舟の如し

○六月十五日山王系流社所修復あり同月廿九日小延るは洪水未

減せし七月より洪水大降七日八日より再お降して大川水勢を急し大川橋

新大橋永代橋損を住来より大園橋の通りあり本所辺ありて水新

増し分り本所より士民板中候より戸をさして逃る人たは生難しん

まより新橋不令せられ日助新救護せ出されこれと救あり

○當年在りあも災あり上州桐生倉野野時及

宇都宮佐野本宿熊谷深谷行田小中外大災あり ○喜多静盧丙午弁

一巻を著輯し写本 世の人丙午の年より災厄ありと云且當年小生る男女を記す世のありとありこれ

弘化四年丁未

式江年表卷之八

正月十日夜亥刻下谷通新町より出火千住三昧の寺院焼亡也○正月

廿八日曉丑中刻柳町より出火三所程乾院○二月二日より西新井弘法大師園

焼○三月廿一日より関系不動寺園焼○月十八日より清葉寺親世寺園焼○二月より

清葉焼の寺一向三尊の法院如來園焼○湯島社地を野島地蔵寺園焼去きの焼

○五月より清葉寺町大徳寺を武及馬場村麻防明神園焼○二月廿五日

小山田小清率國學院より初名多田清葉寺より清葉寺の焼○改号如來寺の焼

○河東橋芝居寺の狂言小重春柳春鹿春の正徳を伴ひて世に引れて諸人酒席の戯色にこれを喜ばせ

○表儀衆士の奥山へお物を出さんと相比奈の人形を造る所のなき一丈除煙差へのなき二万才より

○三月廿四日信州大地震人多く死にけりも地夜少一の地震あり

今年三月八日より川中島若老の如來の園焼ありて諸寺より集落集をとり橋麻とて一掃す小

清葉山の焼よりも滅する成怪とて三月廿四日晝夜快晴とて夜に時以條小大地震

ひびく之焼は家屋を覆し壓し打れて即死するもの幾千人といふ事を知りて清葉寺近辺の諸寺に清葉

聖堂ありてこの禍不遠ふりのたとも小教へて世に引れて諸人酒席の戯色にこれを喜ばせ

又雷の如き雷なりて高より出り夜に又近今清葉四月廿日ありての終止りて大地に烈けり

物傳中より人並降入丹波島より二重川上虚空山井下程最是澤川一麓入洪水溢る丹波川水神出

た右殿の如き焼死の人多き事を知りて或は清葉寺に三万人といふ人の焼く事を知りて水内郡の諸

寺より清葉寺に地蔵の像を流し多くは焼く事を知りて清葉寺に三万人といふ人の焼く事を知りて

○五月十六日曉八半時横山同明町より出火橋町三嶺町横山町辺乾院以乾院

時焼る○六月八日傳多町小舟町天王神樂所出火の事去年迄未だの事休し今年

より法小の事あり○史籍年表刊行一卷伴信玄著○日蓮町茶屋菊造物出火

○十月吉原秋葉燈観念の時花火の物多き出火○吉曲類纂六卷持引月峯著

此年同記事

根岸新田といふ不又梅屋家とて多く園中廣く松と紅白枝と交り頗る壯觀あり

考之里の如き一を祀りて以て碑を建てる碑は高時如く小橋れり考の名家を橋とあり

○革毛といふ條毛石垣をりといふ條神形と申す ○谷中瑞林と塔久成院妙法
善神社の形なる者あり ○高橋石神門不安番と境内に福あり ○七年以来雲降ると稀
○海邊よりいれられしをせんりくつ二の点畫と純一餘人とれふ事と加へて画の成り
大への長人びきりのみりて代

嘉永元年戊申 二月十六日改元

今年の大小章の字を以て暗記に運筆の順あり終て小に横と云々次章 ○二月六日より晴
天十日の筋遠橋所の外加加系よ於て室生丈夫觀進能身行り九月十三日小橋より鳥
羽の日毎小遠をの半輪輻輳と雖と云ふのあり ○二月廿九日芝泉堂の八柱曼
荼羅開帳 ○其六所経院如來六所開帳 ○三月三日青山善光寺にて大坂如光
寺経院如來開帳 北の善光寺本堂
善光寺成務寺 ○三月廿三日夜赤坂表傳町三丁目火火教寺町焼亡
○四月後深山遊山上人化益 日物寺後編
ね秀寺も編 ○三月廿九日喜多静慮卒 今江才名世言
経言島早橋園
要保天徳の中教院に奉養
内外の善籍小あり一人あり ○五月護國寺の内松の梢小齋齋と云ふ ○六月初旬より旱

○六月廿五日十日日向院にて清涼教如來開帳 今年の要保善光寺のありて種内廣人顯
奉出候はれと云ふのあり

○七月八日淺草寺奉養あり甲則青柳村福昌寺祖師同和蓮光寺あり上徳興法妙光
寺祖師開帳 於寺
あり ○八月浮世繪師英泉歿 ○八月廿二日北島玄惠法印五百年忌

市谷仲の町金春氏之能兼狂言鳥あり 持たふまを法下ハ觀應元年六月十日不寂せり
嘉永二年よりして六百年之今年を越へり

○八月廿九日所連寺師壽阿弥曇喬卒 今才名如是福庵聖華殿号劇神仙云
小石川傳通院寺中昌林院小善光 ○十月浅草東

仲町大路小極接井と極あり ○十一月六日曲亭馬琴卒 今才名解号兼三玄同善他堂ありの松号
あり如備法清ありと云羅殿ありと云

○十二月九日夜亥刻小品川吉村新宿より火火寺子目進焼る ○目黒新入坂大園寺

昭和九年の災後廢りて今も再興の企有りて本堂を建敷如來毘沙門天を安置

○川口善光寺本堂善法成就 ○神代文字考一卷併成 崔峯成申
編輯

累家風も昔小順ひ百穀豊饒ありて都鄙の良賤閑を獲る事なきを友珠小快樂哉

○川口善光寺本堂善法成就 ○神代文字考一卷併成 崔峯成申
編輯

累家風も昔小順ひ百穀豊饒ありて都鄙の良賤閑を獲る事なきを友珠小快樂哉

亦東古の事乃よむ事其の林の存も文之神奈佛舎或啓舎秘の場も賽一其を
 二及化お撲の福楼一花街に戲也梨園に遊ひ六市井の置塵を避け多麻川に年魚
 と及心格も小帰路を忘れ真間も丹楓を賞とて一詩を賦一秋を添一斜陽を惜む
 遊軍も妙も其実より昇平の消息深き一造次顛沛忘る事一こと

おろこのころころぬらぬらもゆらゆらあるは代めくみよ 枝直
 落葉の海をその舟もあれおきうけて浪もぬせは流るもぬり 千巻
 いちよりのそと一もあぬむさうの時日はあひくもは夜更 空阿
 のりもあふみわたりの光は秋の山あはの露のあつたえくもを 宗固
 ねきよれもさふもあつたもあつたもあつたもあつたもあつたも 桂山

嘉永改元戊申季冬穀且福成

編者 森藤市左衛門幸成

武江年表卷之八畢

去歲幾初せる前輯四巻の内備書の誤れりも有り自己の誤れりも多し
 以てさうあつたはきこむ件をたふさく

一三表文禄二年小徳菴角の出家を北條五代記重上の出入ふあつて日本橋の
 上と以案るふけとけを本日幸橋のそとさる前あり

同十表梅花をそ花は妙國の石の由記る暗化の誤之是川は五層の塔の
 ありしもの載されとも有りんを云

同十七表上野の地伊賀の上野も因てある場あると記る説り非あり永禄年中
 小条家の分帳帳もも上野の名を云へり

同二十表伏菴和尙の偶夫が南北より此夫を若若誤て夫と云せり

同廿四表細江孔頼を誤て孔歎と書せり
 二二表伊丹右京の戸砂もよと左京とあるは誤之藤原物語も誤りく右
 系に改むべし

同五表三ごくと古繪畫もよとある記りこれのみごとく一ぬと唱へし之はた子
 小御供の意もやと云へり

同十表茶屋系が京板本誤りくあると云れり
 同二十表惟豆海のあつた向ふ小署は冷しゆとあるは誤之をさし冷しと云せり

同廿三表當時の戸町敷子二百餘町と記り千七百餘町と改むべし
 同廿五表三浦倉を尾後六人ありと記るは誤之後十人小徳の丁物代千二人あり

同廿六裏 小宗木川通勢地出東人改新舊新深川只建と記せる場あり 此時迄

三ノ表 橋上幸洪後務物師推名伊豫吉寛小改むべし

同表 延宝二年の下ふし郊とあるべきは誤り

同表 延宝二年の下のし郊とあるべきは誤り

同表 貞享の洪水は六郷橋の流るるに月三年宮古月廿二日あり

同十七表 善光寺を先皇より改むべし

同十九表 縣宗知を揚て懸とあるなり

同十一表 英一葉辞世の多中の句ありや空平為善の月と誤せり

同十七裏 富士初若為縁物とあるは誤り縁物不他とあり物に縁字之

此除尚誤謬ありんも知るをうべし 慶長の日志の人その偏るを誤補ひ



右輯四卷傳書 宮城昌成

齋藤長秋居士編述

江戸名所圖會

上帙十冊

下帙十冊

全二十冊出來

長谷川雪且先生画

齋藤長秋居士編述

江戸名所圖會拾遺

全十冊近刻

長谷川雪且先生画

齋藤月岑先生著

東都歳事記

全五冊

長谷川雪堤先生画

齋藤月岑先生著

聲曲類纂

全六冊

長谷川雪堤先生画

毎歳ニ江府テラ元神事佛會並貴賤ノ風俗マテヨ
四時ニ分チ記シ遠邦他郷ノ人ヲシテ江戸ノ歳時ノ
盛ナルヲ知ラシメントスコレニ加フルニ花鳥雪月ノ佳境
ヲ載ス多クハ郊外ニアリトイヘドモ江城ノ良賤歩
ヲ運ブノ勝區ハトモニ記シテ遊觀ノ助トス
淨瑠璃節ノ世ニ行ハレシヨリ流流ノ分レタル年代ヲ探リ
アツム卷首ニ系圖ヲノセ概畧ヲシラシム小野於通ガ傳
三味線ノ権輿ヲ詳ニシマタ寛永正條ノ頃古圖ヲ徴ト
シ末ニ曲節ノ名目伊勢音頭湖末節大盡舞四竹ホ
ニ至ル迄委シクソノ由来ヲ記ス

正江年表

嘉永三年庚戌十一月刻

大慈齋橋北久太郎町

河内屋喜兵衛

同心齋橋通博勞町

河内屋茂兵衛

同心齋橋通安堂寺町

秋田屋太右衛門

江戸日本橋通二丁目

須原屋茂兵衛

同 浅草茅町二丁目

須原屋伊八版

發行書林

發行

書林

京都三條通升屋町

大慈齋橋筋北太郎町

同心齋橋筋安堂寺町

江戸芝神明前

同 日本橋通二丁目

同 横山町三丁目

同 本石町十軒店

同 神田旅籠町二丁目

同 大傳馬町二丁目

同 日本橋通二丁目

同 日本橋通四丁目

同 神田通新石町

同 浅草茅町二丁目

出雲寺文次郎

河内屋喜兵衛

秋田屋太右衛門

岡田屋嘉七

山城屋佐兵衛

和泉屋金右衛門

英屋大助

紙屋徳八

丁子屋平兵衛

須原屋茂兵衛

須原屋新兵衛

須原屋佐助

須原屋源助

須原屋伊八

